

目次

ビデオでマルチメディアを考える

ミニシリーズ (その3)

資料紹介

中小コレクション

本学教官著作寄贈図書

寄贈図書

電気通信普及財団寄付金購入図書

平成9年度図書館カレンダー (その2)

ビデオでマルチメディアを考える

宍道 勉

NHK教育テレビの人気番組に「金曜フォーラム」がある。そこで先頃「人の知的進化とマルチメディア」と題する第三回マルチメディア国際フォーラム(1997年5月)の録画が放映された。コーディネータは「メディアの世紀」(岩波書店)、「大衆との決別」,「マルチメディアマインドーデジタル革命をもたらすものー」(いずれもBNN),「イデオロギーとしてのメディア」(福武書店)などの著作でマルチメディアの思想を紹介してくれた浜野保樹氏(メディア教育開発センター助教授)である。彼は冒頭でユネスコの経済統計グラフを使い「日本は情報インフラにおいては世界第27位にあり先進国などおこがましいのではないかと、ことに情報産業では他の国に相当の遅れをとっている」ことを示した。現に一つの企業が独占する我が国の通信産業では競争相手がないからトップクラスの営業収入を上げている。それは当然関連産業が発展しないことを意味している。マルチメディア,その究極のインターネットを家庭にまでの通産省の構想もキロからメガ,ギガへの通信速度が実現してこそ本物となり,日本経済が低迷から脱するというものである。しかし何十兆円以上と試算されるそんな基盤整備をゼネコン一辺倒の日本企業が実行するであろうか。

パネリストの一人にコンピュータ関係者の教祖的存在のアラン・ケイその人を迎えた。ディスプレイどころかパーソナルコンピュータの名称も生まれていない1968年に(当時彼は20代ではなかったか?)既に「ダイナブック」の名を付けて,現在のノート型のコンピュータ・イメージを描いた。コンピュー

タがその名の通り「計算機」機能しか持たなかったときに,「計算機でない」コンピュータ思想を先取りしていたのである。コンピュータの開発から巡り巡って現在はウォルト・ディズニーの遊び系の会社に所属している,それもアメリカならではの経歴であり,アラン・ケイらしいともいえる。



2番目のパネリストは73歳とは思えない若々しさの大川功氏である。知る人ぞ知る(私もこの番組を観るまでは知らなかった)今や世界のコンピュータ市場で日本が唯一誇れるゲームソフトの会社「セガ・エンタープライズ」の会長である。大阪人(関西弁だから?)の商魂逞しい経営者の眼でしっかりとマルチメディアの現状と未来を把握した発言であった。ゲームのOSがコンピュータのマルチメディア機能を拡張し,その主流にならないとも限らないという期待を抱かせた。

最後はハンサムな松岡正剛氏。この人はどう形容したらいいのであろうか。その分野では良く知られファンを大いに沸かせているところであるが,彼の経歴は判ったようで判らない。肩書きを「編集工学研究所」所長と紹介されるとますます判らなくなる。浜野氏の表現では「文化の前衛」であり「知のエンターテナ」ということになるが,いわばマルチ人間なのだ。

この人を知ったのは以前のこの番組だった。インターネットを語りながらいつの間にかハイパーテキスト,そして「曼陀羅」の世界に引き込まれた強烈

な印象が残っている。これはただ者ではないとみた私は早速彼のことを調べた。代表的著書は「知の編集工学」(朝日新聞社, 1996)で、現在のマルチメディア社会を「バラバラなメディアの技術の足し算ですまそうとしている…テキストはワープロ技術, ヴィジュアルはビデオ技術とアニメ技術, 音声は録音技術と音声合成技術で, そして計算は昔ながらの計算機。これらが足し算されるだけで作れる」と考えるのはおかしい, と指摘する。それは日本の情報産業への取り組みがハードウェア一辺倒で, ソフトウェアの力が弱いことへの痛烈な批判である。

今やどこを見てもWindows95が唯一のコンピュータOSの如く君臨している, さらに世界のコンピュータ利用者(企業主導)の大半がそれに傾きつつあるのが気に入らない。使い易く, だから「利用者に優しい」マックOSなのに, 最も得意としているDTPの分野までがWindows95に乗り取られようとしている, しかもそのための組合を形成してまで(先日の産経新聞)。Windows95のダサイとしかいえないデスクトップ画面とアイコンも, どんなに真似をしようとも三色リンゴ・マークのセンスを越えられないことをマック・ファンなら良く知っている。2つの優れたOSがあってそれらが「競う」ことがコンピュータやマルチメディアの向上に繋がる。「独占」は確かに1つの企業を大きくはするが, 経済全体から見れば発展どころか妨げとなる。それなのにどうしてこの世の中は「大きい」ものに縋っていくのだろうか, 不思議でならない。だからあのマイクロソフト社のビル・ゲイツを見るだけに腹立たしい(年収が数百億円?などと聞くからなおのこと袈裟まで憎い)。

ソフトウェアの未来に比べ既にハードウェアは「儲かる産業」ではない, と云われて久しい。それなのに日本では「幸せの黄色いリボン」のシャイな「あの健さんも使えるよ」と見せるF社。オーバーなボディと顔のアクションが売り物の俳優を登用したCFは, 商品のイメージと彼の個性とがどうみてもミスマッチとしか思えないのに, ノートパソコンを持たせては, N社は相変わらず98を売り込んでいく(これで日本経済に未来があるか)。

アラン・ケイは「インターネット時代に1つのOS(名指しはしなかった)が永久に続くはずがない」と強調していた。果たしてもう一度マックが対抗馬になるのか, それとももっと別の優れたOSが登場するであろうか。

松岡正剛に戻ろう。彼の著書に「(増補)情報の

歴史」(N T T出版, 1996)がある。5センチの分厚い書籍であるがただの本ではなく, 中身は「歴史年表」である。それも学校の歴史教育で見えるような「政治」を中心に世界が動いているように描かれているのではない。村上陽一郎が「科学史の逆遠近法」(新曜社)でいうような「簡理論」でも「パケツ理論」でもない歴史表現である。太古の時代は100年とか50年の歴史「単位」で表し, 近代になれば5年間隔となり, そして1年と詳細になる。年表の流れのメインは「情報」であり, それに社会史が「参照付録」で表されている。歴史は「見る」ものではなく「読む」ことであるかのようである。つまり史実が横に並列的にリンクされているので, 旧来の読書形式である「直線型」よりも「ハイパーテキスト型」で読むのがふさわしい。

その松岡氏は「マルチメディアは人間そのものではないか。視覚, 聴覚, 言葉, 皮膚, 脳, 神経, 手先などすべてがマルチメディア・ライクであるから。」と発言した。すなわち機器としてのマルチメディアはヒトの各器官の代替物ではない, その延長にあってその機能を補する道具である, というわけだ。

ところでこのビデオをこの夏の鳥取大学一般教育総合科目「知の技法」の講義で用いた。「知」の探求には「マルチメディア」が欠かせないし, これが格好の教材と考えたからである。ビデオは正しく映像であり, 講義の言葉や黒板の文字よりも情報量が多いからそれなりのインパクトを与える。ところがビデオは「話言葉」で表現されているので聞き手はそれを「文字にデコードして解釈する」ことが求められる。つまりマルチメディアの知識や理解という共通のコンテキスト上で初めて会話や討論に参加できる。受講の学生が馴染みの薄いマルチメディアの迷宮をどう受け止めたか, である。真の「知」とは何であるか, また学問をリンクするマルチメディアこそ「知の技法」そのものであると理解してくれたであろうか。そしてヒトこそ最も進んだマルチメディアであることも。

それにしてもデジタル世界の「マルチメディア」の話をアナログのビデオ・テープで紹介するのは「一方通行」であり, 時代の逆行である。本当はモバイル・コンピュータでCD-ROMやインターネットに接続し文字, 画像, 動画, 音声全てをプレゼンテーション手法で見せたかった。そうなれば少なくとも「インタラクティブ(双方向)」なマルチメディアが学生に受けたかも知れない。

(鳥取女子短期大学 講師)

利用していますか

OPAC (図書・雑誌) 検索

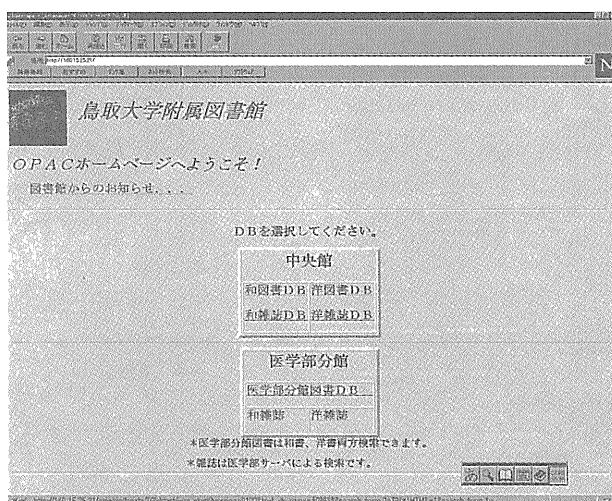
鳥取大学で所蔵する資料の検索手段として、OPACの検索サービスがあります。

中央館の図書については、平成2年度以降受入れたもの、図書館に開架されている図書のうち遡及入力完了したものについては検索可能です。雑誌については、全学のデータが検索可能ですが、現在データの構築中であり、もれを防ぐため冊子体目録・目録カードを併用してください。医学部分館の図書は昭和63年度以降受入れたものが検索できます。雑誌は医学部独自のシステムでの検索となります。

平成9年3月のリプレースに伴い新システムが稼動し、インターネット上で利用するWWWブラウザでOPACを提供しています。今年6月より図書館ホームページからもOPAC検索が可能となり、研究室からも24時間検索できます。今までのOPAC検索では、ファンクションキーやコマンドでの操作が主で、わかりづらい面もありましたが、マウスを使い検索ボタンや結果の表示をクリックするだけで、画面が展開しますので操作も簡単になりました。また、入力する文字列のものを検索しますので、もれなく検索できます。

そこで今回はOPACの検索方法について簡単に説明したいと思います。

①OPAC初期画面です。中央館、医学部分館の図書、雑誌が検索できます。中央館は和書、洋書、和雑誌、洋雑誌別に検索します。医学部分館は和洋図書同時に検索できます。ただし、雑誌検索は医学部独自の検索システムですので、このシステムと異なります。検索したいDB項目をマウスを使いクリック(左ボタンを1回押す)する。



②検索画面となり検索語を入力する。入力する前に必ずマウスで検索したい項目の入力エリアに矢印を持っていきクリックしてください。(カーソルが点滅します。)これをしないと入力できません。

検索語を入力後、**検索ボタン**をクリックする。

図書検索の場合

標 題：タイトル、副題から検索。

著 者 名：著者名で検索。

(姓と名の間に*を入れる)

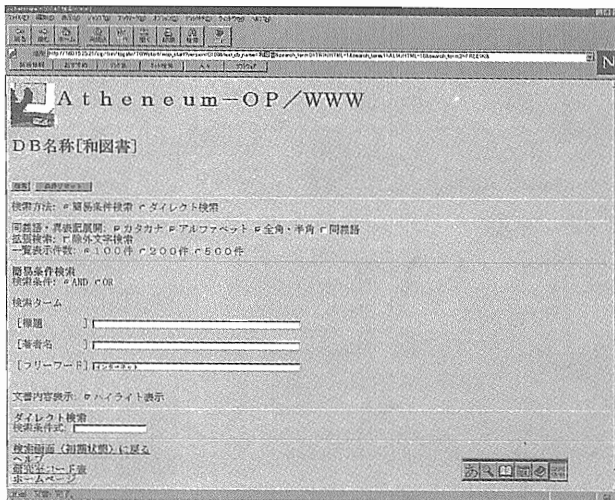
フリーワード：すべてのエリアから検索できます。

(タイトル、著者名はもちろんシリーズ名、件名、出版者、出版年等から検索できます。)

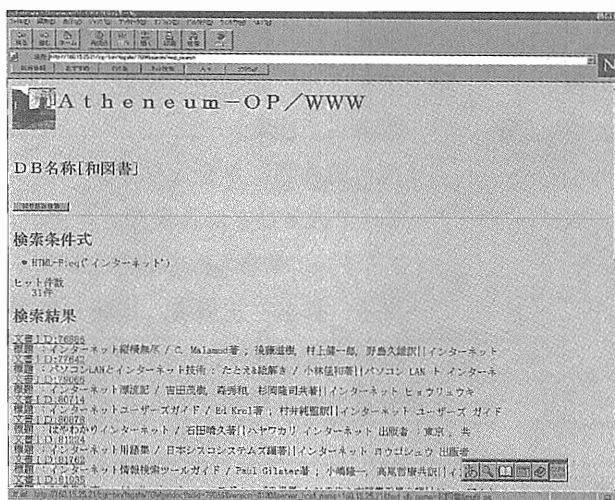
*フリーワードで検索する事をお勧めします。

雑誌検索の場合

雑誌の場合略語で探す場合がありますが、データがすべて略語で持っているとは限りませんので、1ワード(略語でもよい)いれて検索してください。結果が多いようでしたら絞り込み検索を行なってください。



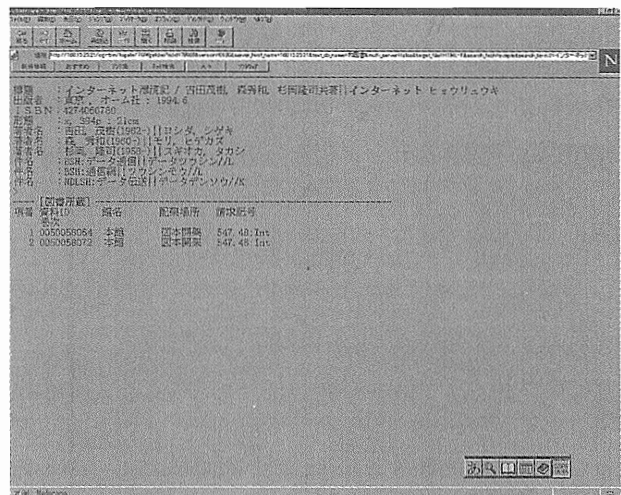
③検索の結果が一覧で出る。画面下を見る場合は右スクロールバーをマウスを使い動かす。この表示では所蔵先、配架場所はわかりませんので詳細表示を見る。詳細表示を見る場合は、それぞれのタイトルの上に文書ID(青くなっている)のところをクリックする。



④詳細表示に変わり、資料の書誌事項、配架場所、請求記号がわかります。図書館所蔵の場合は図本開架、図本参考など日本語で表示されていますが、研究室分はアルファベット4文字で表示されています。研究室名を知りたい場合は、一覧表示または検索画面の一番下に「研究室コード表」がありますので、クリックすれば一覧が出ます。また、図書館内には端末に研究室リスト表が備え付けてありますので参

照して下さい。雑誌の場合は、配架場所と所蔵巻数が表示されています。巻数の最後の+マークは継続して所蔵している意味です。ついてない場合はそこで中止になっています。

画面を戻す場合は、ブラウザ上記の「戻るボタン」をクリックすれば一覧に戻ります。「戻るボタン」を押す事により前画面に戻っていきます。



⑤終了する場合はブラウザの上段にある「ホーム」ボタンをクリックしてください。OPAC初期画面になります。

以上簡単な説明ですが、鳥取大学の図書、雑誌を検索するための重要なツールですので、基本を頭に入れておいて検索してください。利用の仕方が分からない場合は、係員にお尋ね下さい。また、OPAC講習会にも是非参加してください。(案内は掲示板に表示します。)

研究室からのアクセス方法

- ①ブラウザで図書館ホームページを呼び出す。
URL <http://www.lib.tottori-u.ac.jp>
- ②メニューの中の「情報検索」をクリックする。
- ③「情報検索」の中の「鳥取大学OPAC検索」のところをクリックする。
- ④OPAC初期画面が出る。

私の選んだこの一冊

池澤夏樹 文 垂水健吾 写真

未来圏からの風

(PARCO出版 1996年)

宮崎知子

モームはスウィフトをお手本に小説を書く練習をしたという。まずスウィフトの文章を読んで本を閉じ、自分で同じ内容のものを書いてみてお手本と自分との違いを研究したそうだ。

私にとっては、『未来圏からの風』の著者池澤夏樹の文章があこがれである。モームのようにはできないけれど、もし誰かが「毎日3時間ずつ池澤夏樹の著書を写経のように写せば論理的で簡潔で力強い文章が書けるようになりますよ」と信じさせてくれたら、日記もダイエットも続かない私だけ心を入れ替えて頑張ってみたい。

(今これを池澤夏樹が書いてくれたら、この本のどこがどう良いのかをきちんと説明してくれて、誰もが自分は読むべきか読まなくてもよいのか判断できる、という文章を書く人です。)

小説、エッセイ、紀行文などが数多く出版されていて、内容も、映画のこと、飛行機のこと、科学のこと、宗教のことと多彩である。その文章に表われているとおり知識と知性にあふれている。読んでいると博識なすてきなガイドと一緒に、探検をしている気分になる。

『未来圏からの風』は、「われわれはどこへ行くのか？」という問いをかかえた旅の記録である。でもこの旅での池澤夏樹は、植物を調べ、風を確かめて一人で真剣に道を探している人のように思われた。時々振り返って私を安心させるように微笑みながら。

この旅は、実際にヒマラヤ・アラスカ・ニューイングランド・パリへと行われる。それらの自然や、ドライラマ、星野道夫、アメリカの最先端科学者達へのインタビュー、それぞれの土地で出会った人々の話が方位磁石となる。

方向を見失ったのではないか、という不安を打ち消すように挿まれた写真は、明るい未来への想いを暖めてくれる。

「未来圏」という言葉は宮澤賢治の詩の用語だそう。池澤夏樹は、旅の途中で度々宮澤賢治の作品を思いだしている。旅の終わりには、科学者であり、宗教を信じた人であり、自然の近くに生きた人であった宮澤賢治の描いた円のなかを旅した気持ちになったと書いている。宮澤賢治が好きなのは、この本の中にその面影を見る描写が沢山あるのではないか。

「われわれはどこへ行くのか？」という問いに対する答えはでないけれど、歩み続けることの意味を疑わせない勇気を与えてくれる本である。

(雑誌情報係)



～資料紹介～

マルチメディア昆虫図鑑

日高敏高監修・海野和男著

アスキー出版局 1995

夏、木立の中では蟬がにぎやかに鳴いています。蟬の鳴き声だということはわかるしアブラゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ、ミンミンゼミといった一般的な蟬の名前は知っているけれど、今鳴いているのが何という蟬なのか、自信をもって答えることの出来る人は少ないのではないのでしょうか。

そんな人にお薦めなのが、Windows3.1以上、メインメモリ8MB以上のパソコンで利用出来るこのCD-ROM図鑑です。

この図鑑は、「昆虫とは何か」「昆虫の不思議」「環境と昆虫」「資料室」「フォトギャラリー」の5つのメニューで構成されています。

「昆虫の不思議」→「鳴く」と進みますと、次に「夏の林」「夏の草原」「秋の草原」のいずれかを選択する画面へと移ります。蟬の鳴き声を聴きたい人は「夏の林」をクリックして下さい。現われた夏木

立には「5匹の昆虫がかくれています」ので、その5匹をみつけて堪能するまで鳴き声を聴いて下さい。たった5種類の蟬の声ですが、識別がつくようになれば、きっと来年の夏が待ち遠しくなることでしょう。

「昆虫の不思議」→「かくれる(擬態)」も、これが虫かなと思われるあたりをクリックすると、背景が黒一色になるためくっきりと昆虫が表示になります。その虫の形と見事な隠れ方には思わず感嘆の聲がでるほどです。

自然界の不思議さ・すばらしさを垣間みさせてくれる楽しくて面白いこのCD-ROM図鑑は、冊子体部分のみ配架しています(請求記号 496.038:Mar)。CD-ROMは別置していますので、カウンターにお申し出下さい。

《ウルマン工業化学百科事典 第5版の 寄贈を受けました》

このたび、宝塚市の満谷昭夫氏から「ウルマン工業化学百科事典 第5版(Ullmann's Encyclopedia of Industrial Chemistry. 5th Completely rev. ed. 37vols.)」の寄贈を受けました。この事典は、ふたつのシリーズと索引で構成され、Aシリーズにはアルファベット順配列で化学工業と関連工業の全分野の工業化学製品、製造プロセスに関する項目が、そしてBシリーズには分野別に化学工業の原理、最新および種々の分析法、環境保全技術に関する項目が収録されています。現在、その整理もすべて完了し、中央館1階参考図書コーナーに配架していますので、是非ご利用ください。

本学教官著作寄贈図書

(平成9年1月～9月17日受入分)

この度は次のように寄贈していただきました。ありがとうございました。本学教官著作寄贈図書コーナーに配架し、利用に供しています。

(寄贈者名のABC順。所属等は平成9年4月1日現在)

頭文字	寄贈者名・所属等	書名	発行所名・発行年	備考
IC	市南 文一 (元教育学部)	国際化と地域経済 — 地域的再編成と地域振興の課題 —	古今書院 1997年3月	執筆
KA	川尻裕一郎 (農学部)	田園誕生の風景	日本経済新聞社 1990年7月	著者
KU	久保 昇三 (工学部)	防災救命テクノブック	近畿建築協会 1997年3月	作品掲載
KU	黒川 泰亨 (農学部)	ボンジョルノ・ギリス共著 森林経営と経済学—数理的 方法の基礎—	日本林業調査会 1997年2月	監訳
OG	小笠原隆三 (農学部)	日本の巨樹・老樹	西日本法規出版 1997年7月	著者
OZ	尾崎 繁 (農学部)	中山間地域の資源開発と保全 管理	畑地農業振興会 1997年5月	執筆
YA	柳原 邦光 (教育学部)	支配の文化史—近世ヨーロ ッパの解説—(西洋史ライブラリー)	ミネルヴァ書房 1997年5月	執筆
YO	萬屋 秀雄 (教育学部)	読書感想文の読者論的研究 (国語科授業改革双書10)	明治図書 1997年4月	著者
YO	萬屋 秀雄 (教育学部)	現代言語教育の改革	溪水社 1996年11月	著者
YO	萬屋 秀雄 (教育学部)	現代児童文学と国語教育	高文堂出版社 1996年11月	著者
YO	萬屋 秀雄 (教育学部)	子どもの本の世界—子どもの 読書と現代児童文学—	富士書店 1997年4月	著者
YO	萬屋 秀雄 (教育学部)	大村はま「国語単元学習」か ら何を学ぶか	溪水社 1996年12月	著者
YO	吉田 勲 (農学部)	水処理法とリサイクル	近代文芸社 1997年4月	著者
YO	吉村 伸夫 (教育学部)	アンドルー・マージェル散文 作品「リハーサル」散文版	松柏社 1997年6月	訳・注+解説



《平成8年度中小コレクションの紹介》

平成8年度は、各部局から購入希望のあった次のものを購入しました。
すでに整理を終え、【 】内の場所に配架していますので、是非ご利用ください。

①Encyclopedia of Nuclear Magnetic Resonance. 8 Volume Set. Wiley刊	【1階第1閲覧室 429.099:Enc】
②分県登山ガイド (全45巻のうち既刊37冊) 山と溪谷社刊	【2階第4閲覧室】
③新版地学教育講座 全16巻 東海大学出版社刊	【2階第4閲覧室 450.7:Shi】
④実験化学講座 第4版 全30巻 日本化学会編 丸善刊	【2階第4閲覧室 432:Jik】
⑤キリスト教新聞記事総覧 第1期 全10巻 日本図書センター刊	【2階第4閲覧室 190.31:Kir】
⑥国民学校関係コレクション エムティ出版刊	
1) 《国民学校総合雑誌》日本教育 全12巻	【1階雑誌書庫】
2) 国民学校 全7巻	【1階雑誌書庫】
3) 写真集『国民学校と子どもたち』 全2巻	【2階第2閲覧室 372.1:Kok】
4) 国民学校関係資料集成 全11巻	【1階雑誌書庫】
⑦新版・空撮登山ガイド 全13巻 山と溪谷社刊	【2階第4閲覧室】
⑧新日本古典文学大系 (全100巻のうち今年度は8冊購入) 岩波書店刊	【2階第3閲覧室 918:Shi】
⑨新生化学実験講座 全20巻(38冊) 日本生化学会編 東京化学同人刊	【2階第4閲覧室 464.08:Shi】
⑩デミング博士の品質管理 ビデオテープ全4巻 グローバルメディア・システムズ刊	【1階視聴覚室】
⑪GOWERスライド集成	【1階視聴覚室】
バイオケミストリー スライド119枚 ヘスコインターナショナル発売	



平成8年度電気通信普及財団の寄付金 による購入図書資料について

図書館では、平成6年度・7年度に引き続いて財団法人電気通信普及財団から、「次の世代を担う学生に、電気通信に関する理解を深めてもらいたい」という趣旨によって寄付金を受け、図書を購入しました。3年目ともなりますと、電気通信等に関する学生用図書は目に見えて充実してきました。

ここに平成8年度購入分を紹介します。リストは書名のABC順です。

1. 受入冊数 123冊 (平成7年度は144冊)
2. 配置場所 すべて閲覧室 (それぞれ主題毎に分類・整理・配架)
3. 寄贈表示 タイトルページに「財電気通信普及財団寄贈」と表示
4. 利用形態 一般図書：学生の貸出期間は2週間

参考図書：辞書類は禁帯出

	編 著 者	書 名	発行所・発行年
1	遠藤正興ほか	アマチュア無線用語事典	オーム社 1996
2	Dern, Daniel P. 矢吹道郎ほか訳	ビギナーのためのインターネットガイド	CQ出版 //
3	日置祥久	CD-ROM制作の現場	エーアイ出版 //
4	横山直隆	C言語による製作と制御実習入門	シータスク (川越) //
5	新電気編集部	電気電子情報英和20000語辞典	オーム社 //
6	小沢孝夫	電気回路を理解する	昭晃堂 //
7	平山博, 氏家理央	電子情報通信英和・和英辞典	共立出版 //
8	安田浩, 渡辺裕	デジタル画像圧縮の基礎	日経BP出版センター //
9	日高徹	DSP入っていますか?	新紀元社 //
10	電子情報通信学会	電子情報通信学会大学シリーズ A-1 応用代数	コロナ社 1988
11	"	" A-2 応用解析	" 1987
12	"	" A-3 応用ベクトル解析	" 1981
13	"	" A-4 数値計算法	" 1980
14	"	" A-5 情報数学	" 1985
15	"	" A-6 応用確立論	" 1981
16	"	" B-1 電磁理論	" 1989
17	"	" B-2 改定電磁気計測	" 1982
18	"	" B-3 電子計測	" 1981
19	"	" C-1 回路基礎論	" 1985
20	"	" C-2 回路の応答	コロナ社 1981
21	"	" C-3 回路の合成	コロナ社 1981
22	"	" C-4 基礎アナログ電子回路	" 1988
23	"	" C-5 アナログ集積電子回路	" 1994
24	"	" C-6 パルス回路	" 1989
25	"	" D-2 固体電子工学	" 1983
26	"	" D-3 電子物性	" 1980
27	"	" D-4 物質の構造	" 1983
28	"	" D-6 電子材料・部品と計測	" 1982
29	"	" D-7 電子デバイスプロセス	" 1983
30	"	" E-1 半導体デバイス	" 1982
31	"	" E-2 電子管・超高周波デバイス	" 1983
32	"	" E-3 センサデバイス	" 1993
33	"	" E-4 光デバイス	" 1986
34	"	" E-5 半導体集積回路	" 1995
35	"	" F-1 通信工学通論	" 1994
36	"	" F-2 伝送回路	" 1983
37	"	" F-4 通信方式	" 1985

	編 著 者	書 名	発行所・発行年
38	電子情報通信学会	電子情報通信学会大学シリーズ F-5 通信伝送工学	コロナ社 1981
39	〃	〃 F-7 通信網工学	〃 1981
40	〃	〃 F-8 電磁波工学	〃 1983
41	〃	〃 F-9 マイクロ波・ミリ波工学	〃 1986
42	〃	〃 F-10 光エレクトロニクス	〃 1982
43	〃	〃 F-11 応用電波工学	〃 1985
44	〃	〃 F-12 音響工学	〃 1982
45	〃	〃 G-1 情報理論	〃 1980
46	〃	〃 G-2 スwitching回路理論	〃 1985
47	〃	〃 G-3 デジタル回路	〃 1982
48	〃	〃 H-1 プログラミング	〃 1982
49	〃	〃 H-2 情報処理と電子計算機	〃 1988
50	〃	〃 H-3 電子計算機 I	〃 1992
51	〃	〃 H-4 〃 II	〃 1989
52	〃	〃 H-5 計算機方式	〃 1985
53	〃	〃 H-7 オペレーティングシステム論	〃 1984
54	〃	〃 I-3 シミュレーション	〃 1994
55	〃	〃 I-4 パターン情報処理	〃 1983
56	〃	〃 J-1 電気エネルギー工学	〃 1995
57	〃	〃 J-3 信頼性工学	〃 1980
58	〃	〃 J-4 生体工学	〃 1985
59	〃	〃 J-5 改訂画像工学	〃 1983
60	〃	〃 演習3 数値計算法演習	〃 1988
61	〃	〃 5 応用確立論演習	〃 1983
62	〃	〃 7 電磁気計測演習	〃 1985
63	〃	〃 10 回路の応答演習	〃 1984
64	〃	〃 16 電子物性演習	〃 1984
65	〃	〃 19 伝送回路演習	〃 1984
66	〃	〃 22 通信伝送工学演習	〃 1995
67	〃	〃 23 電磁波工学演習	〃 1986
68	〃	〃 27 Switching回路理論演習	〃 1988
69	〃	〃 31 信頼性工学演習	〃 1984
70	〃	〃 32 光デバイス演習	〃 1988
71	液晶若手研究会	液晶ディスプレイの最先端	シグマ出版 1996
72	Chapman, D.B. 他 鈴木克彦 訳	ファイアウォール構築	オライリー・ジャパン(発売:オーム社) 〃
73	久保宏志 監修	富士通におけるソフトウェア品質保証の実際	日科技連 〃
74	二宮佑一, 大塚吉道	ハイビジョン方式技術	コロナ社 〃
75	日本放送協会	ハイビジョンのすべて	日本放送出版協会 〃
76	富田真治	並列コンピュータ工学	昭晃堂 〃
77	川上彰二郎 他	光ファイバとファイバ形デバイス	培風館 〃
78	神山淑朗	ホームページ・ビルダーハンドブック	ディー・アート 〃
79	アドバンスド・ホームページクリエイティブ	ホームページデザインキット	秀和システム 〃
80	Java技術研究会	HTMLとJavaScript	工学図書 〃

	編 著 者	書 名	発行所・発行年
81	マルチメディア通信研究会	標準インターネット教科書	アスキー 1996
82	岡村総善 監訳	I E E E電気・電子用語辞典	丸善 //
83	大竹政広	インターネットアドレスブック	中央経済社 //
84	インプレス編集部	Internetホームページ用素材集CD-ROM for Windows	インプレス(発売:インプレス販売) //
85	インプレス編集部	Internetホームページ用素材集CD-ROM Macintosh版	インプレス(発売:インプレス販売) //
86	坂和敏	インターネット素敵なホームページデザイン	グラフィック社 //
87	T A Cインターネット研究会	インターネットテキスト	T A C //
88	松野善夫	インターネットワーキング	リックテレコム //
89	大江和彦	医師・医療関係者のためのインターネット	中山書店 //
90	資源エネルギー庁	地震に強い電気設備のために	電力新報社 //
91	広井和男	実用アドバンス制御とその応用	工業技術社 //
92	山崎亨	情報工学のための電子回路	森北出版 //
93	SEMIスタンダードFPDテクノロジー部会	カラーT F T液晶ディスプレイ	共立出版 //
94	日本規格協会	金属材料データブック 改訂4版	日本規格協会 //
95	竹内啓	高度技術社会と人間	岩波書店 //
96	羽石操 他	小形・平面アンテナ	電子通信情報学会(発売:コロナ社) //
97	棟上昭男 監訳	コンピュータ大百科	朝倉書店 //
98	日本ユニパック	コンピュータ英和・和英辞典 第2版	共立出版 //
99	廣瀬健 他	コンピュータソフトウェア事典	丸善 //
100	堺誠	これでわかるインターネット:電子メールdeたのしめへ	エスシーシー //
101	Wells,R. 中川正雄 他整訳	高速インターネットとケーブルモデム	アスキー //
102	Kirch,O. 小嶋隆一 他訳	LINUXネットワーク管理	オライリー・ジャパン(発売:オーム社) //
103		Making of homepage	エージ出版(発売:オーク出版サービス) //
104	佐藤薫	マルチメディア時代の知的創造物法入門	オーム社 //
105	デジタル・クリエイターズ連絡協議会	マルチメディア事典 '96年版	ソフトバンク //
106	Rose,L. Fems 訳	ネットワークの罠(トラップ)	アスキー //
107	武井一巳	NIFTY - Serve徹底活用マニュアル 1996年版	H B J 出版局 //
108	ノイズ対策用語辞典編集委員会	ノイズ対策用語辞典	日刊工業新聞社 //
109	小寺次夫	オンラインネットワークコンピューティング	富士通経営研修所 //
110	谷萩隆嗣	音声と画像のデジタル信号処理	コロナ社 //
111	北脇信彦	音のコミュニケーション工学	コロナ社 //
112	長松昭男	音・振動のモード解析と制御	コロナ社 //
113	広瀬茂男	ロボット工学 改訂版	裳華房 //
114	神保進一	最新マイクロプロセサテクノロジー	日経B P社(発売:日経B P出版センター) //
115		新ビデオ技術マニュアル	写真工業出版社 1995
116	国枝博昭	集積回路設計入門	コロナ社 1996
117	水野幸男 監修	ソフトウェアの総合的品質管理	日科技連出版社 //
118	Comer,D.他 村井純 他訳	TCP/IPによるネットワーク構築 vol.3	共立出版 //
119	原田益水	T Vのすべて 改訂版	電波新聞社 //
120	Mark Minasi他 テクニカルコア 訳編	Windows NT Server3.51 パーフェクトガイド	翔泳社 //
121	富士電機能力開発センター	やさしい電子と情報の基礎知識	オーム社 //
122		情報通信技術のあゆみ シリーズ1:のろしから再び光へ(ビデオ)	ジェコム //
123		〃 シリーズ2:光・衛星・デジタル(ビデオ)	ジェコム //

平成9年度図書館カレンダー（その2）

曜日	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
日					1 ●	1 ●	(開館時間)
月			1		2	2	□ 9:00~20:00
火			2		3	3	
水	1 後期開講		3		4	4	□ 10:00~16:30
木	2		4	1 ●元日	5	5	
金	3		5	2 ●	6	6	■ 9:00~17:00
土	4	1 ●大学祭	6	3 ●	7	7	
日	5 ●	2 ●	7 ●	4 ●	8 ●	8 ●	
月	6	3 ●文化の日	8	5 ●	9	9	
火	7	4	9	6	10	10	■ 図書整理日
水	8	5	10	7	11 建国記念の日	11	(一般閲覧室・ ブラウジング コーナーのみ 開室)
木	9 図書整理日	6	11	8	12	12	
金	10 ●体育の日	7	12	9	13	13 図書整理日	
土	11	8	13	10 ●	14	14 ●	
日	12 ●	9 ●	14 ●	11 ●	15 休日開館	15 ●	● 休館日
月	13	10	15	12	16 後期定期試験 開始	16	
火	14	11	16	13	17	17	
水	15	12	17	14	18	18	
木	16	13	18	15 ●成人の日	19	19	
金	17	14	19	16	20	20	
土	18	15	20	17	21	21 ●春分の日	
日	19 ●	16 ●	21 ●	18 ●	22 休日開館	22 ●	
月	20	17	22	19	23	23	
火	21	18	23 ●天皇誕生日	20	24	24	
水	22	19	24 冬季休業日 ~1/16	21	25	25	
木	23	20	25 図書整理日 (開室しない)	22	26	26 春季休業日 ~3/31	
金	24	21	26 ●年末年始の 休館~1/5	23	27	27	
土	25	22	27 ●	24	28	28 ●	
日	26 ●	23 ●勤労感謝の日	28 ●	25 ●		29 ●	
月	27	24 ●振替休日	29 ●	26		30	
火	28	25	30 ●	27		31 図書整理日	
水	29	26	31 ●	28			
木	30	27		29			
金	31 図書整理日	28 図書整理日		30 図書整理日			
土		29		31			
日		30 ●					
月							

鳥取大学附属図書館報 第90号 (1997年10月発行)

編集・発行：鳥取大学附属図書館 〒680鳥取市湖山町南4丁目101 ☎0857-31-6728

ホームページアドレス <http://www.lib.tottori-u.ac.jp>